

対策案の検討について

③ フィーダー交通の検討について

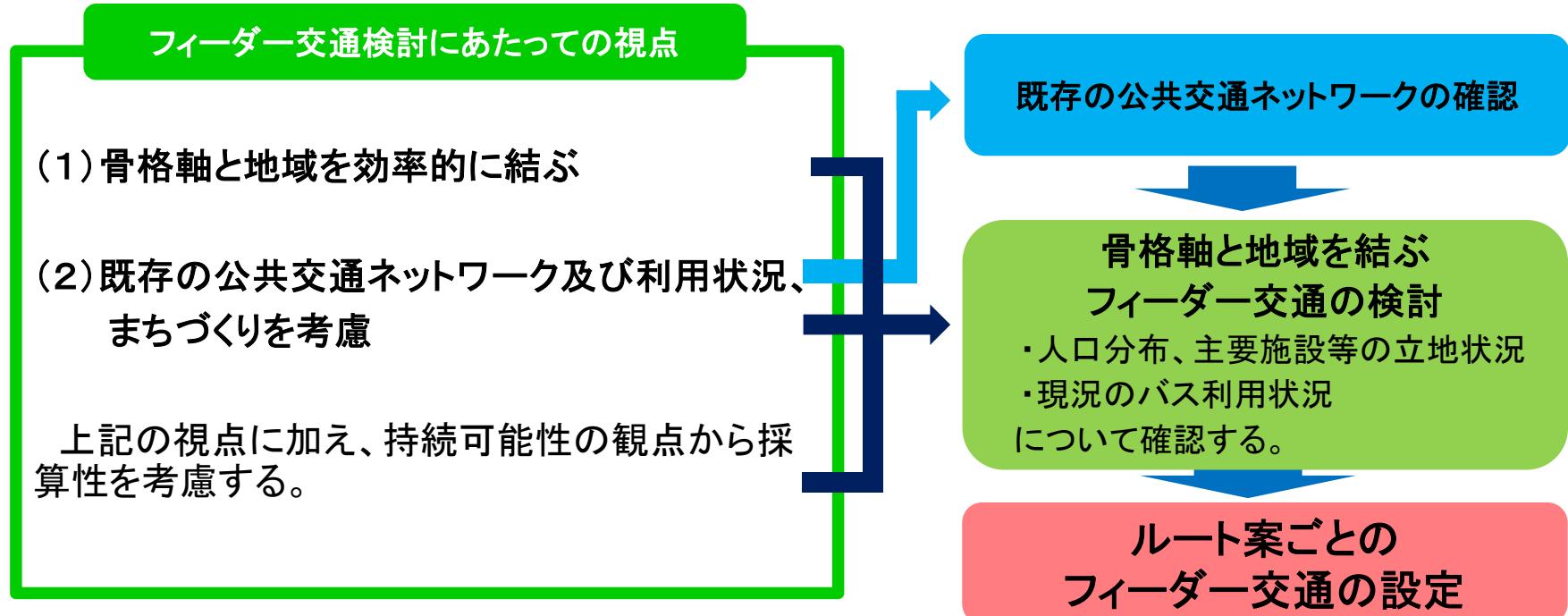
平成28年3月29日
沖縄県



目次

1. フィーダー交通の検討手順	1
2. 骨格軸と地域を結ぶフィーダー交通の検討	2
2-1 既存の公共交通ネットワークの確認	
2-2 人口分布、主要施設等の確認	
3. 骨格軸とフィーダー交通が連携する公共交通ネットワークのイメージ	7

1. フィーダー交通の検討手順



1. 骨格軸と地域を結ぶフィーダー交通の検討

STEP3

2. フィーダー交通の需要等を確認(需要予測)

STEP4～

3. フィーダーの需要等を踏まえ、骨格軸の起点・終点を設定

2. 骨格軸と地域を結ぶフィーダー交通の検討

2-1 既存の公共交通ネットワークの確認

- バスやモノレールなど既存の公共交通ネットワークは、人口分布や空港・港湾、集客施設など主要施設等を考慮し形成されている。
- 北部は名護、中南部は那覇を中心とした公共交通ネットワークにより、各地域が結ばれている。

既存の公共交通ネットワークを踏まえ、フィーダー交通を検討する。

沖縄本島のバス系統別路線図およびモノレール路線
(概略図)



※図は、同一の市町村間を運行する系統を統合し表示
(太さは系統数・運行本数を考慮して整理)

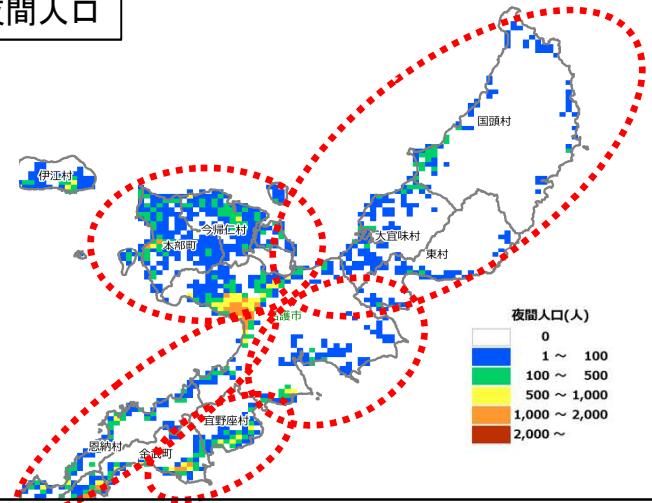
資料 沖縄県バス協会バスマップ(平成27年2月)及び村営バス等を基に作成

2. 骨格軸と地域を結ぶフィーダー交通の検討

2-2 人口分布、主要施設等【北部】

- 夜間人口は、名護市の市街地に多く、その他町村に広く分布している。
- 主要施設等は、本部港や運天港、海洋博記念公園、万国津梁館、沖縄科学技術大学院大学が立地。西海岸に宿泊施設が集積している。

夜間人口



宿泊施設の客室数

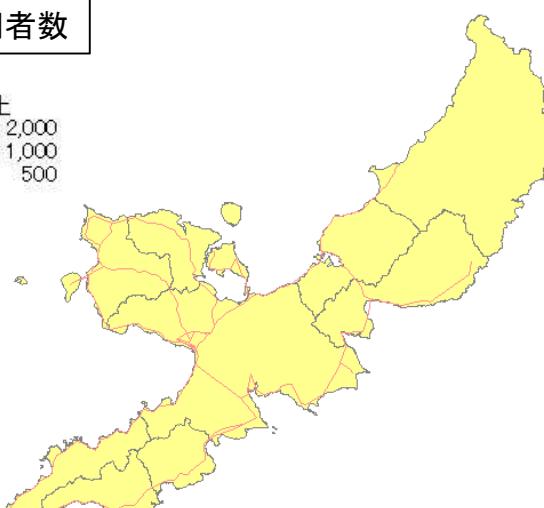
※客室数300室以上
(町丁目ごと)を表示



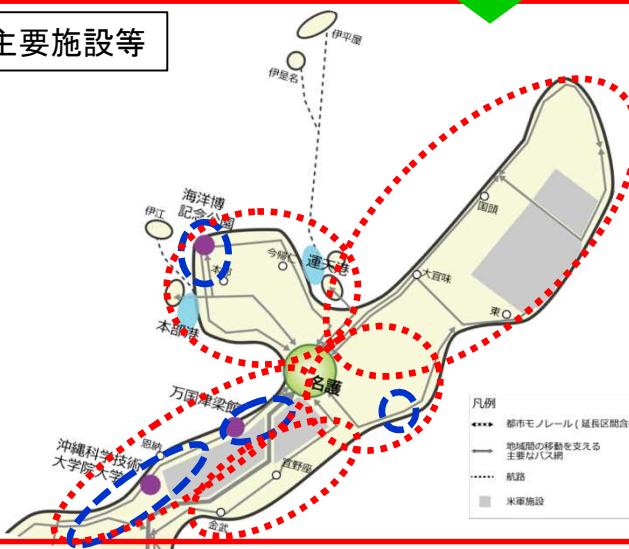
現況バス利用者数

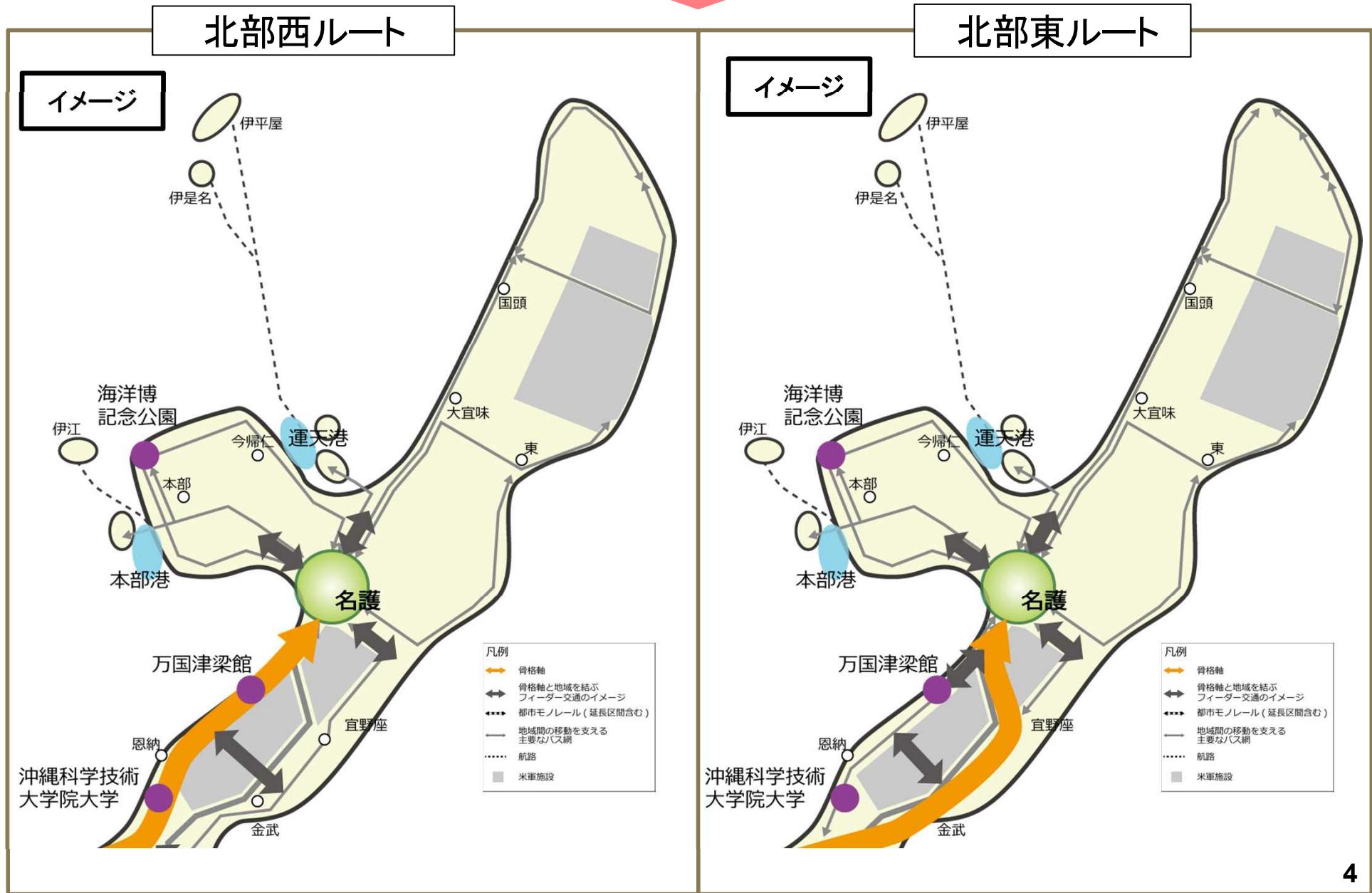
単位:人/日

2,000以上
1,000 ~ 2,000
500 ~ 1,000
0 ~ 500



人口、主要施設等



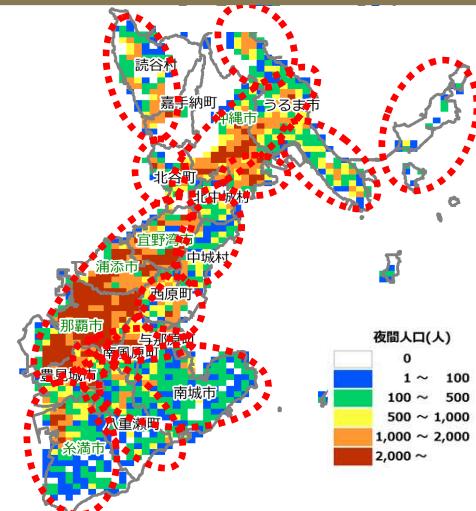


2. 地域と骨格軸を結ぶフィーダー交通の検討

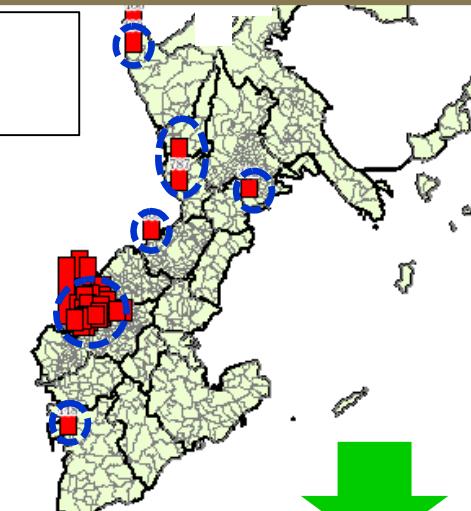
2-2 人口分布、主要施設等【中南部】

- 夜間人口は那覇市、浦添市、宜野湾市、沖縄市に集積し、その他地域にも広く分布している。
- 主要施設等は、那覇空港、那覇港、中城湾港のほか、コンベンションセンターや大型MICE施設(建設予定)が立地。宿泊施設は、那覇市に集積し、読谷村、北谷町、宜野湾市、沖縄市、糸満市にも立地する。
- 現況のバス利用は、那覇～沖縄、那覇～与那原で多く、豊見城、八重瀬、北谷、うるまも比較的多い。

夜間人口



宿泊施設の客室数
※客室数300室以上
(町丁目ごと)を表示



現況バス利用者数

単位:人/日

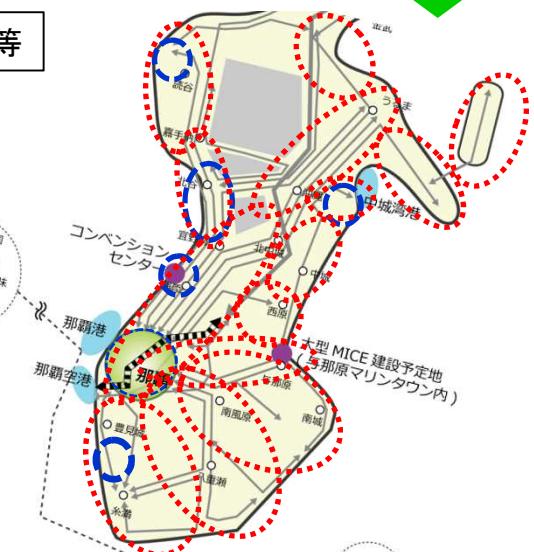
2,000以上
1,000 ~ 2,000
500 ~ 1,000
0 ~ 500

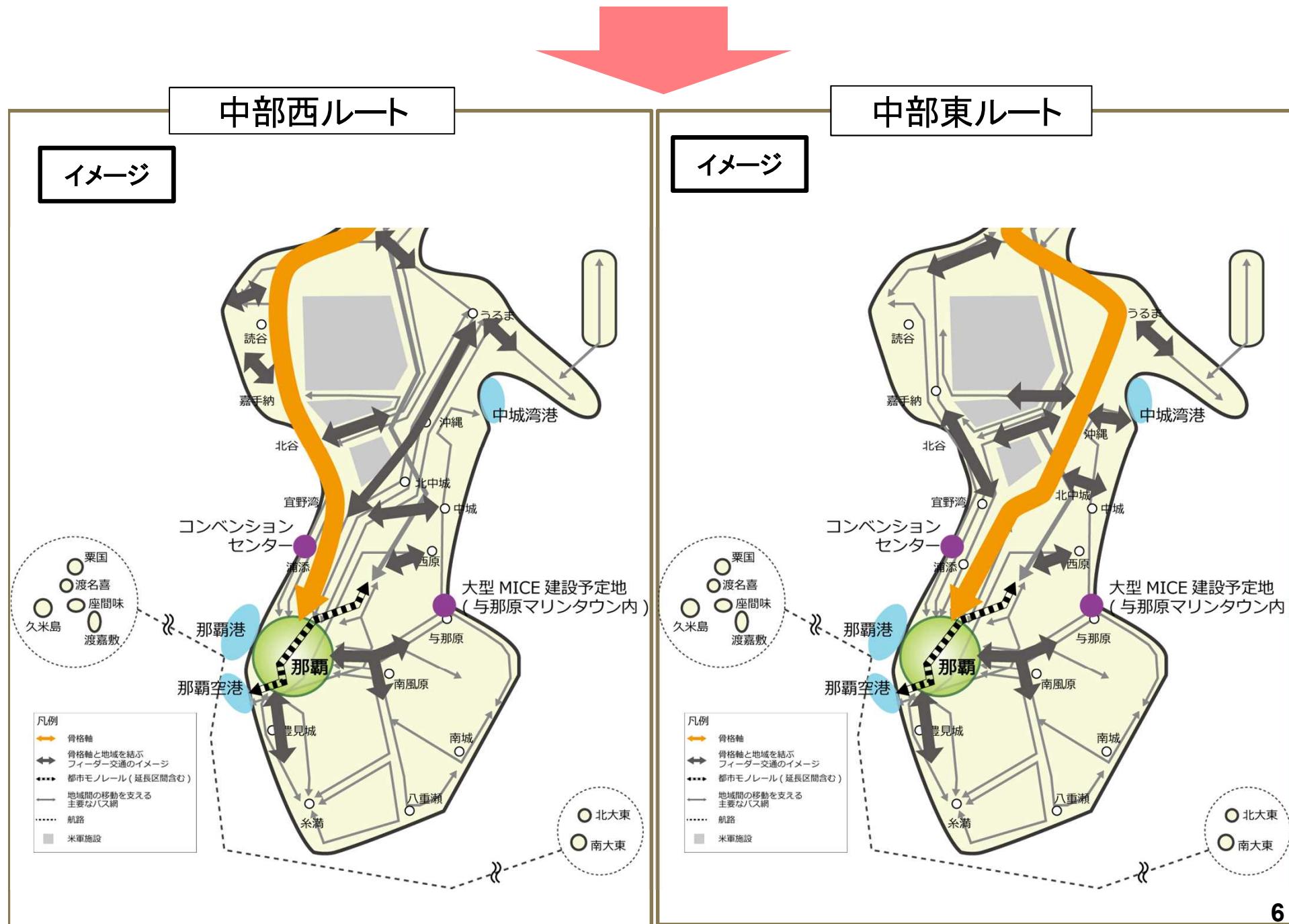


人口、主要施設等

凡例

- 都市モノレール (延長区間含む)
- 地域間の移動を支える
主要なバス路
- 航路
- 米軍施設

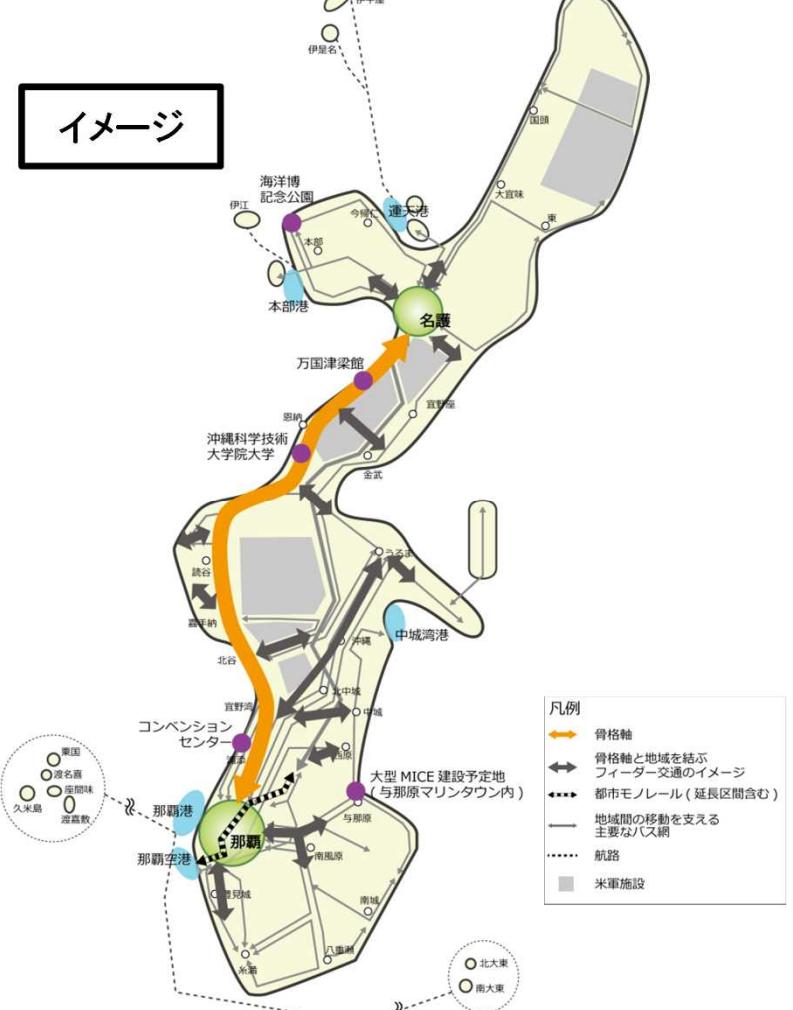




3. 骨格軸とフィーダー交通が連携する公共交通ネットワークのイメージ

- 既存の公共交通ネットワークや現況のバス利用状況等を考慮すると、各ルート案ごとの「骨格軸とフィーダー交通が連携する公共交通ネットワークのイメージ」は以下のとおりとなる。
- なお、フィーダー交通の需要等については、ステップ4で確認する(需要予測)。

骨格軸A案(中部西・北部西ルート)

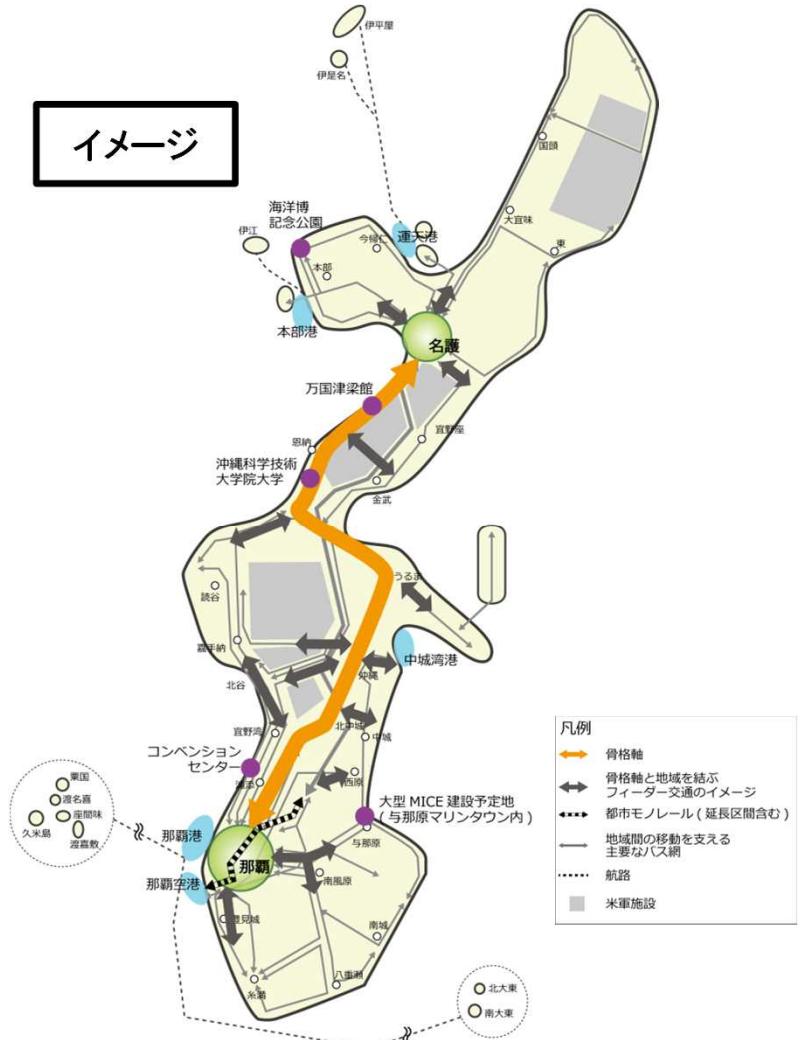


骨格軸B案(中部西・北部東ルート)



骨格軸C案(中部東・北部西ルート)

イメージ



骨格軸D案(中部東・北部東ルート)

イメージ

